



出水小学校 学校だより

そったく き  
啐啄の機 R7 No. 7

令和7年7月8日（火）

熊本市立出水小学校

校長：横山 幸生

## 7月11日（金） 学級懇談会おまちしております！

3年生の国語の教科書に「モチモチの木」という物語があります。保護者のみなさんの中にも小学校の時に国語の時間に読んだという方もいらっしゃると思います。あらすじは次の通りです。

主人公の豆太は峠の猟師小屋に「じさま」と二人で暮らしています。猟師小屋の便所は戸外にあるのですが、豆太はとても臆病で、庭にある「モチモチの木」が怖くて、夜中に一人で「しょんべん」にもいきません。ある夜、豆太は「じさま」の唸り声で目を覚まします。「じさま」は腹が痛くて苦しんでいたのです。すると豆太は夜の山道をふもとまで一人で「医者様」を呼びに行きます。その帰り道に豆太は「モチモチの木」に灯がともる「山の神の祭り」を目にするのでした。

さて、物語の冒頭では豆太の「臆病」な様子が描かれます。ところがクライマックスでは夜中に半里（約2Km）の山道を一人で医者を呼びに行く「勇気」のある姿が描かれます。さて、豆太は臆病なのでしょうか、勇気がある子なのでしょうか？

これには様々な解釈があると思いますが、私は「臆病」な面と「勇気」のある面、どちらも「本当の豆太」だと思います。私たち大人も「職場の自分」「家庭の自分」「友人と一緒にいるときの自分」…など、相手や状況によって見せる姿はきっと異なると思いますが、そのいずれもが「本当の自分」であり、人にはそのような多面性・多様性があるものではないかと考えます。

そこで、保護者の皆様にお願ひです。是非、7月11日（金）の学級懇談会にお越しください。子どもたちもきっと「家庭での姿」と「学校での姿」では異なる面があると思います。大切なことは家庭と学校とでそのようなお子様の姿を共有しておくということです。家庭からと学校からと異なる視点からお子様の姿を見取り、その姿を共有し合うことで、保護者の皆様も私たち学校職員もより深くお子様のことを理解することができるようになります。学級懇談では、1学期の授業や行事、休み時間などのお子様の姿をお伝えします。そして、ぜひご家庭でのお子様の様子をお聴かせ願えればと思います。「教育」は「共育」です。子どもは学校だけ、家庭だけのどちらか一方だけで育つものではありません。学校と家庭が連携して、「共に育てる」ことが大切だと考えます。

大変ご多用中かと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。